

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700013		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム鴨方1F		
所在地	岡山県浅口市鴨方町深田439-1		
自己評価作成日	平成28年3月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3392700013-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成28年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族会を毎年行い、家族間での意見交換が、できる場をつくっている。 ・同じ楽しみを持って頂くことで自然と寂しさ・孤独感が、なくなり、会話・笑顔が、溢れる空間になっている。 ・個性を大切にしながら共同生活を送ってもらう。 ・入居者様が、喜んで下さることを常にスタッフで考えている事。(行事・誕生会・散歩など) ・面会に来られた家族に近況報告を必ず行ない、内容を記録に残している。 ・楽しんで身体を動かして頂くよう配慮し、無理強いしない。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームに着き、周辺の裏の山を眺めると、一瞬桃源郷に立っているかと思えた。玄関周辺にはプランターの美しい花々に水遣りを、溢れんばかりの笑顔で楽しんでいるAさんとお手伝いをしている職員。日当たりの良い菜園では男性のBさんが野菜の植え付けや草取りをしていて話が弾む。私達は玄関を開ける前にすでにこの魅力にひかれてしまっていた。集団の生活ではあるが「出来る限り個別の対応を」「自分で考え自分で選んで“楽しかった！”という喜びを」という職員の思いから、「あなたとだけの外出や買い物」等の特別な支援を続けている。リビングに一步入ると中央の机の上は広告の紙の山。数人の利用者がそれぞれの得手・不得手によって紙を切ったり編んでいたりして、入れ物や額を作る。まるで作業場で、熱気さえ感じられる。「小さい頃からしてきたんで、これをせんと落着かん」と話してくれるが、手の動きが止まる事はない。こんな活気・やる気一杯のホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との交流は、祭りの神輿に来て頂いたり、初詣に近くのお寺に行く程度しかできていない。	1・2階ユニット毎の目標の他に、ホーム全体の今年度の目標「1・2階ユニットが協力し合い、報告・連絡・相談を密にする。お互い助け合い思いやりを持ってケアをする」を掲げ、職員間で意識付けをしながら、より良いケアを目指して頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のボランティアの方が、歌を歌いに定期的に来て下さったり、敬老会のイベントには、近くの保育園の子供たちに来て頂いている。	今年から法人の他GHとの合同敬老会をこのホームで開催し、保育園児と触れ合い、歌や踊りを観賞して楽しく交流している。地域の祭りに参加したり、神輿が立ち寄ってくれる等、地域との交流も年々幅が広がり、つながりも深まってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来た人の話を聞き相談にのる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方や民生委員・入居者の家族の方と2か月に1度ホームの入居状況・様子を伝え、問題点や疑問を話し合う。	市の担当者、民生委員、家族等の参加のもとで2ヶ月に1回開催し、DVD(写真)で行事報告等を行っている。会議の議事録の確認が難しい状況なので、意見交換や情報交換の内容を職員間で共有しやすい形で残す事が必要と思われる。	情報や意見の交換も活発で良い会議が開催されているようなので、事後の検討や振り返りの為にも記録をもう少し綿密に残しておいた方が良いのではないかと。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で地域の情報を提供して頂いたり、研修会などに参加し情報交換を行っている	市の担当者から空き情報を尋ねられたり、地域包括から利用者の紹介もある。緊急入所を受け入れる事もあり、後見人がついている人、生保の人等がいるので、日頃から担当者と連携を取り合いながら支援内容について話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を束縛せず自由に過ごして頂く。外に出たい時には、必ず職員が、ついて行く。	帰宅願望があり外に出たい人には職員が見守りながら付き添っているが、要因分析をして例えば「寂しがり屋」の人には安定した生活を模索するなど、その人に合わせた支援をしようとして取り組んでいる。身体拘束委員会があり、職員間で日頃から拘束しないケアを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ヒヤリハットを設け、事故に繋がりが易い事をすべての職員が、把握し、虐待などが、起きないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が、会議の場で発表し、話し合いをする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を見ながら説明し、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2が月に1回運営推進会議を開いたり、年1回家族会を開き意見・要望が、言える場を設けている。	家族会も定着してきて、今年度は七夕会と一緒に開催し、ウッドデッキで「そうめんと天ぷら」を食べながら交流をした。家族の面会時に状況報告をしたり意見や要望を聞いているが、状態に変化があれば電話や手紙でその都度伝えている。	3年程前から家族会が開催され、多数の家族の参加も得て有意義な会となり成果が見られているので、今後も是非継続し、家族アンケートも有効に活用して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者と管理者の会議を行い、代表として管理者が、職員の意見を言い、代表者の意見を管理者が、毎月行われる職員会議で発表する。	月1回、法人の全体会議をして社長、総務、法人の各施設の管理者等が話し合い、職員からの意見や要望を伝え、運営に反映するようにしている。毎月のユニット会議や日々の申し送りノートで情報の共有をし、職員間で話しあっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年年末に個別評価表をつける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々のレベルアップを図るため、研修参加の機会を設けているが、スタッフ不足の為にできていない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフ不足の為にできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当時から落ち着くまでスタッフが、常に傍にいるよう気を付け、安心してもらうと同時に信頼関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時必ず近況報告・ケア状況を報告し、家族様の疑問要望に応える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを立てる時点で家族様の要望を必ず聞き、短期プランとし、様子を観ながら対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせず、好きなこと、出来る事を見極め「働かざる者食うべからず」と言いながら動ける範囲で手伝いをお願いする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時は、連絡し、参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、どなたでも自由にして頂き、行きたい所は、時間と人が、許す限り連れていく。	近所の方が面会に来てくれたり、家族・親族の面会もある。法人の他GHから一緒に移行してきて、いつも行動を共にする程仲良しの利用者同士もいて、馴染みの関係が継続できている良い例もある。すぐ近くにある系列のサ高住に夫が入所している人は、職員の支援で行き来する等、馴染みの関係を保っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を考え、衝突が、おきないように配慮し、職員が、間に常に入り、話を引出したり口論にならないよう注意する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多施設へ移られた場合、面会へ行かせて頂いている。亡くなられた場合お別れに行かせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人話を聞く時間を設け、本人の気持ちを聞く。又意志疎通が、できない方は、表情を観ながら推察していく。	家族の縁が薄く寂しい思いをしている人も多いので、普通を心がけ親しみやすい声かけをしている。「服を買って欲しい」等、自分の要望をはっきり言う人もいるが、時々利用者が何気なくつぶやく言葉を拾って、心の内を察したり、感情を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に家族様・友達から生活歴・趣味・嗜好を教えて頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録を細かく記入することで 職員全員が、一人一人を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを本人・家族の要望を入れ、また職員会議で話し合い作り上げていく。	アセスメント・モニタリングをして、職員間で話し合いながらプランを作成している。日々の介護経過記録に利用者の発言や行動を記入し、小さな気づきも見逃さず状態を把握して課題を話し合い、次のプランにつなげるようにしている。	生活援助計画は家族の意向のみでなく、本人の意向を重点に置いて作成した方が良いので、ここでどう暮らしたいか、何をしたいのか等、よく把握して本人の意向に添ったプランを職員間で話し合い、身体的支援に加え「心のケア」を重視したプランを立てる事が望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作り、誰でも何時でも見る事が、できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望・家族の要望にできるがぎり対応するようにしている。又できない場合は、理由を説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑で野菜を作ったり、花壇で花を育てたりして楽しみと生きがいを見つけてもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人・家族が希望するかかりつけ医となっているが、ない場合は、家族と相談して協力医療機関にする。	従来のかかりつけ医を受診する人が大半であり、原則家族に付き添いをお願いしているが、きのこエスポール病院の精神科等の他科受診は職員が同行する機会が多い。歯科診療の必要があれば電話して訪問歯科をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を看護師に伝え、指示をあおぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず情報提供書を持参し、面会に行った際には、状態を聞いて帰る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針を家族に説明し、同意書を頂いています。	この2年間で、入所後1ヶ月で急変した人を含め2名の看取りを経験した。ターミナルで何度も入退院を繰り返していた人は、家族から「ここまで長生きしてくれた」と職員への感謝の言葉もあり、職員にとっても貴重な経験がまた一つ増えた。今後も本人・家族の希望があれば協力医と相談しながら、出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のかかりつけ医、家族様の連絡先を記入した一覧表を作り、緊急時の対応を図式化して見えるところに張っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っているが、本年度は、できていない。	前回は担架を購入して利用者に乗せ、階段を使って避難させるという訓練を実施したが、ホームの職員体制の変更もあり、この1年間避難訓練は実施できなかった。2階の居室からの避難方法として外付けの非常階段が設置されている。スプリングクレーは設置済である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の対応に努め、気を使わず自由に暮らし、自室では、プライバシーが、保てるようにしている。	トイレへの声かけは大きな声ではなく、小さい声でそつと言うようにして、羞恥心に配慮している。居室にナースコールが設置されているので、状態の変化等、緊急性がある場合は個室での対応が可能になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人と話す時間を増やし、思いや希望を聞き、どうしたいかを探るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・起床時間・臥床時間など無理のないように個別対応とする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着て頂き、定期的に出張カットを頼み、ひな祭りなどの行事では、口紅をつけ、着物を着ておしゃれを楽しんでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食べることで食事の時間を楽しんでもらう。また机を拭いたり、皿を洗ったり手伝わってもらう事により一体感をもつ。	居室で全介助の人、ペースト食の人、普通食の人等、食事形態も様々だが、主食はご飯だけでなくパンの好きな人には、用意が出来る時にはパンを出したり、誕生日には外食をする人もいて希望に添った支援をしている。職員も楽しく会話をしながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態により食事量・病人食・医療食とし、水分は、一日1500～2000CC摂取するように努める。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、夕食後は、入れ歯を外し洗浄剤で除菌する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を記入し、時間を見てトイレ誘導をする。又、管を付けていた人が、日中車椅子で起きていることが多くなり、自尿できるようになった。	入所時にはバルーン装着だった人がホームでの職員の適切なケアで自尿が可能になり、排便も出来るまでに改善した例もある。夜間ポータブルを使用している人が1名、自立排泄出来る人は排便を教えてくれたりパット代わりに小さい生理用品を使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分を1500CC以上摂取するようにし、オリゴ糖やヨーグルトなどで排便を促す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ミスト浴とし、仲のいい方と二人で入ったり、午前中に入ったりと変化をもたせている。又、土曜日には、全員洗髪、日曜日には全員足浴をしている。	1階ユニットは車椅子でも入れるミスト浴が中心であり、二人で同時に入る事も出来る。2階ユニットは皮膚疾患や入浴嫌いな人も多いため、専用機器でのシャワー浴であり、1・2階とも浴槽に入る人は今はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い暖かい日には、外気浴をしたり、散歩に行ったりしている。昼寝をする人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事量を書くファイルに処方された薬の効能書きを付けており、確認できる。又、症状の変化などは、申し送りや職員会議で話し合う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	床掃除・皿洗い・水やり洗濯物畳みなど個々にできることをしてもらっている。今は、シビシが、皆様の楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へのドライブ・買い物等を一緒に行きます	初詣や花見に出かけたり、買い物と一緒に歩く等、外出支援をよくしている。ホームセンターが近くにあり、利用者が庭仕事に使う道具等を自分で選ぶ楽しみもあり、気分転換にもなっている。桃畑が広がる自然豊かな環境なので、散歩も楽しみの一つになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かは、家族様了承の上お金を預かるか、立て替えし、スタッフと一緒に買い物に行き、好きな物を買って頂く機会をもうけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が、電話をして途中代わって話をして頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇に花を一緒に植え、水やりを毎日やって頂く。又リビングに花を置き、季節を感じて頂く。昔の童謡などCDをかけ、昔を思い出していただく。	リビングは作業場と化し、みんなで「しびし作り」に熱中しているユニットもあれば、手作り作品を展示し、7段飾りのお雛様を飾っている華やかな雰囲気のあるユニットもある等、リビングは過ごしやすく寛げる共有空間となっている。外にはウッドデッキもありティータイムにも活用している。	リビングを始めとしてホームの菜園や庭等、共用空間の積極的な活用が利用者の生きる力になっている。「こりあ、ええよ。しびしは私のリハビリ」と教えてくれる利用者も居る。この支援を継続し新しい工夫も重ねてさらにステップアップして欲しい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを観たり、ウッドデッキで日光浴をしたり、同じ好きな作業をしたりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物で飾って頂き、御自分で出来ない方は、職員が、し、各部屋が、特徴のあるものとなっている。	家族の写真を壁いっぱい飾ったり、夫が勲章を授与された時の記事を大切にしている人もいれば、可愛いきれいな物が好きという人の部屋には色々な飾り付けがしてあり家族の愛情を感じる。自分にとって居心地の良い寛ぎのある環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを至る所に付け、トイレには、「便所」の張り紙を付け歩きやすく、わかりやすくしている。		